

## アジア大会について

2014年10月 龍井昇治

西暦	元号	第 回	開催地	大会結果(日本選手団中心)など
1958	昭和33	3	東京	アジア大会の種目にバドミントン競技が初めて採択 そのときはオープン戦 タイ・台湾・日本の男子団体対抗戦だけ行って、日本が優勝
1962	37	4	ジャカルタ	男女とも地元のインドネシアが優勝 個人戦始まる
1966	41	5	バンコック	日本女子優勝し、日本男子3位 男子単で秋山真男さんが3位、女子単で中山紀子(旧姓高木)さんが優勝
1970	45	6	バンコック	日本女子優勝し、日本男子3位 男子単で小島一平さんが3位、3位勝 女子単で新沼博江(旧姓湯木)さんが、 女子複で相沢マチ子さん・梅野尾悦子(旧姓竹中)さんがそれぞれ優勝 混合複で小島一平さんと梅野尾悦子さん組が3位
1974	48	7	テヘラン	
1978	52	8	バンコック	
1982	55	9	ニューデリー	
1986	61	10	ソウル	
1990	平成2	11	北京	
1994	平成6	12	広島	水井妃佐子さんが女子単で準優勝
1998	10	13	バンコック	米倉加奈子さんが28年振りに女子単で優勝
2002	14	14	韓国・釜山	
2006	18	15	ドーハ	女子団体戦で20年振りに準優勝、小椋久美子さんと潮田玲子さん組が女子複で12年振りに3位
2010	22	16	中国・広州	団体戦は男女ともベスト8、女子単で広瀬栄理子さんが3位
2014	26	17	韓国・仁川	女子団体が3位、女子複で前田美順さんと柿岩令佳さん組が44年振りの準優勝
2018	30	18	ジャカルタ	